

500
経営編

530 投資

531 投資を
するまえに(Ⅰ)

投資をするまえに(Ⅰ)

投資とは、資本を投下して資産を獲得することである。

現在の酪農業界は畜産クラスター事業などにより、資産の取得に恵まれた経営環境下にあるといえるが、牧場における投資は多額の資金を必要とするのも多く、もし投資戦略を誤れば、資本力のない経営ほどその悪影響は大きい。そこで、酪農経営の投資に関する留意点について説明する。

1. 投資の目的を経営戦略と一致させ、明確な目標を定めること

規模拡大を図るためフリーストール・ミルクパーラーを建設する事例を想定する。その際、建物の規模や施設の構図、パーラーの種類の検討に多くの時間を費やすことは当然である。しかしその前に、フリーストール・ミルクパーラーを建設する目的が、将来構想(経営ビジョン)や、ビジョンを達成するためのシナリオ(経営戦略)と一致していることが重要である。規模拡大はあくまでも手段であり、投資は思い付きで行うものではない。

そして、投資の目的を達成する指標となる目標は明確でなければならない。規模拡大であれば、飼養頭数や出荷乳量といった生産目標とともに、売上高と利益といった経営目標についても具体的に定めておくことが大切である。

2. 経営の資本力にあった投資であること

投資には資金が必要である。

補助金制度を活用した場合でも自己資金は必要であり、自己資金力が不十分な投資は借入を無理に増大させ、経営の安全性を悪化させることになる。

無利子資金による投資は一見有利に見えるが、返済期限が短い場合は年間の返済金が多額となるため注意が必要である。経営活動でその原資を生むことができなければ返済のための借入が発生し、かえって経営悪化の要因となる。

3. 過剰投資はさけること

分不相応な投資は経費の増加額が大きくなり、回収が遅くなることから経営を圧迫する。

フリーストール・ミルクパーラーへの投資は生乳生産の増加が見込まれることから必要以上の投資となりやすい。また、ふん尿処理施設への投資は必要不可欠であるが、投資額が大きい反面、生産や収益への貢献が少ない部門であり、投資限界の分析をすることが重要である。農地取得への投資については、減価償却による費用化ができないため、投資限界の見極めがさらに重要となる。補助事業を利用するなどにより、自己資本による投資額をできるだけ抑制したい。



4. 現状の技術力・資本力を把握すること

現状の経営状態、資本力・技術力を明確に把握するため、過去数年間の経営実績をもとに、綿密な酪農経営分析をすることが望ましい。酪農経営では技術力は即経営収益に影響する。技術力のない経営者は先ず、研修会に参加したり先進農家を訪ねたりして、技術力をつけるべきである。

5. 投資分析

(1) 投資額を求める場合

経産牛1頭当たり5万円のキャッシュフローが確保できる場合の投資限界額を求める。

資金調達の条件は、金利:3.5%、返済期間:20年(表1の年金現価係数表を使用)

投資限度額は、キャッシュフロー(50,000)×年金現価係数(14.2124) = 710,620円

表1 年金現価係数表

利	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5
1	0.98522	0.98039	0.97561	0.97087	0.96618	0.96154	0.95694
2	1.95588	1.94156	1.92742	1.91347	1.89969	1.88609	1.87267
3	2.91220	2.88388	2.85602	2.82861	2.80164	2.77509	2.74896
4	3.85438	3.80773	3.76197	3.71710	3.67308	3.62990	3.58753
5	4.78264	4.71346	4.61583	4.57971	4.51505	4.45182	4.38998
6	5.69719	5.60143	5.50813	5.41719	5.32855	5.24214	5.15787
7	6.59821	6.47199	6.34939	6.23028	6.11454	6.00205	5.89270
8	7.48593	7.32548	7.17014	7.01969	6.87396	6.73274	6.59589
9	8.36052	8.16224	7.97087	7.78611	7.60769	7.43533	7.26879
10	9.22218	8.98259	8.75206	8.53020	8.31661	8.11090	7.91272
11	10.07112	9.78685	9.51421	9.25262	9.00155	8.76048	8.52892
12	10.90751	10.57534	10.25776	9.95400	9.66333	9.38507	9.11858
13	11.73153	11.34837	10.98318	10.63496	10.30274	9.98565	9.68280
14	12.54338	12.10625	11.69091	11.29607	10.92052	10.56312	10.22283
15	13.34323	12.84926	12.38138	11.93794	11.51741	11.11839	10.73955
16	14.13126	13.57771	13.05500	12.56110	12.09412	11.65230	11.23402
17	14.90765	14.29187	13.71220	13.16612	12.65132	12.16567	11.70719
18	15.67256	14.99203	14.35336	13.75351	13.18968	12.65930	12.15999
19	16.42617	15.67846	14.97889	14.32380	13.70984	13.13394	12.59329
20	17.16864	16.35143	15.58916	14.87747	14.21240	13.59033	13.00794

(2) 投資回収に必要なキャッシュフローを求める場合

経産牛1頭当たり70万円を投資した場合に必要なキャッシュフローの増加額を求める。

投資回収の条件は、資本コスト:3.5%、回収期間:20年(表2の資本回収係数表を使用)。

必要キャッシュフローは、投資額(700,000)×資本回収係数(0.07036) = 49,252円

よって、経産牛1頭当たり、年間5万円のキャッシュフロー増加が必要である。

表2 資本回収係数表

年数/金利	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5
1	1.01500	1.02000	1.02500	1.03000	1.03600	1.04000	1.04500
2	0.51128	0.51505	0.51883	0.52261	0.52640	0.53020	0.53400
3	0.34338	0.34675	0.35014	0.35353	0.35693	0.36035	0.36377
4	0.25944	0.26262	0.26582	0.26903	0.27225	0.27549	0.27874
5	0.20909	0.21216	0.21525	0.21835	0.22148	0.22463	0.22779
6	0.17553	0.17853	0.18155	0.18460	0.18767	0.19076	0.19388
7	0.15156	0.15451	0.15750	0.16051	0.16354	0.16661	0.16970
8	0.13358	0.13651	0.13947	0.14246	0.14548	0.14853	0.15161
9	0.11961	0.12252	0.12546	0.12843	0.13145	0.13449	0.13757
10	0.10843	0.11133	0.11426	0.11723	0.12024	0.12329	0.12638
11	0.09929	0.10218	0.10511	0.10808	0.11109	0.11415	0.11725
12	0.09168	0.09456	0.09749	0.10046	0.10348	0.10655	0.10967
13	0.08524	0.08812	0.09105	0.09403	0.09706	0.10014	0.10328
14	0.07972	0.08260	0.08554	0.08853	0.09157	0.09467	0.09782
15	0.07494	0.07783	0.08077	0.08377	0.08683	0.08994	0.09311
16	0.07077	0.07365	0.07660	0.07961	0.08268	0.08582	0.08902
17	0.06708	0.06997	0.07293	0.07595	0.07904	0.08220	0.08542
18	0.06381	0.06670	0.06967	0.07271	0.07582	0.07899	0.08224
19	0.06088	0.06378	0.06676	0.06981	0.07294	0.07614	0.07941
20	0.05825	0.06116	0.06415	0.06722	0.07036	0.07358	0.07688

